

塗りたててちりめんじわの若作り

藤井 絹枝

買いもせぬ西瓜叩すいかいてみたりして

江山 豊

良妻賢母時には鬼の面かぶり

竹本 タエ子

待つことも苦にはならない年金日

田中 たづ子

田植時期過ぎても見えぬたんぼ主

山口 美智子

俳句

父の日や父と成る子の文届く

春吉 智子

ほっそりと老母の腕かいな夏衣

田中 裕子

叱責も上手に交わしソーダ水

林 保江

老鶯ろうおうに導かれゆく山の墓

賤間 星

臥ふす妻にアイスクリームの一匙

田中 孝利

短歌

老いてなお胸に流れる血の色は熟れた苺の赤にも負けず

賤間 由美子

梅雨空は友の出足を鈍であしらせる抹茶ゼリーは出番待ちおり

原田 たえ子

「お帰り」と声かける孫は四年振り若竹は鴨居首屈わかたけめおりかもい

江川 詳子

梅雨晴れの光まぶしき枝先に紫ひとつ木蓮の咲く

藤井 美智子

夏空にブルーインパルスの白煙がぱつと開花す青いキャンバス

山口 正子

自由律俳句

またね 病室のカーテンゆれている

松下 満江

哀しみを乗り越えるまつすぐな目

池田 幸

一行の孫の返信 元氣のみなもと

岡村 裕司

ささやかな楽しみを分けあうあつあつの肉まん

田中 里美

完璧な一日あったかな

林 陽子